

愛器ストラディヴァリウスが故郷に響く

# KING GEROGE

～ 石橋幸子トリオ 2024 ～

初めて日本人に託された1710年製のストラディヴァリウス  
『キング・ジョージ』が、その音色を故郷に響かせます

J.S.バッハ ◆ ゴールドベルク変奏曲より「アリア」  
ルクレール ◆ 2台のバイオリンのためのソナタ op.3 nr.5  
リスト ◆ 巡礼の年 第3年より エステ荘の噴水  
貴志康一 ◆ バイオリンとピアノの為の小品 海のうちた  
シヨパン ◆ スケルツォ 第2番 変ロ短調 op.31  
ブラームス ◆ バイオリンソナタ 第2番 イ長調 op.100  
クライスラー ◆ 美しいロスマリン  
ヘンデル ◆ ハルヴォオルセン編 ◆ パッサカリア  
シヨスタコーヴィチ ◆ 2台のバイオリンとピアノの為の5つの小品



2024

10.13 (日)

14:00 開演 (13:30 開場)

フェリーチェホール

池田市住吉1-4-1 中西クリニック2階 / 阪急宝塚線石橋阪大前駅下車徒歩10分

入場料 4000円 (高校生以下1500円)

主催 医療法人幸雅会、ピティナ・池田フェリーチェステーション

お問合せ/お申込み 中西090-9888-1017 / e-mail felice@music.zaq.jp



# 天才音楽家・貴志康一の愛器『キング・ジョージ』が故郷の大阪に里帰り！

28歳で天逝した天才音楽家の貴志康一（1909～1937）が、100年前に所有した1710年製のストラディバリウス『キング・ジョージ』。この度、彼が手放して以来、同器を用いることを許された初の日本人奏者、石橋幸子さん（チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団在籍）とともに故郷の大阪に里帰りします。

石橋幸子さんは、フェリーチェホールとはご縁の深いヴァイオリニスト。彼女の最も信頼するヴァイオリニストの塩貝みつるさん、ピアニストの江尻南美さんとともに10年振りにホールのステージ登場します。

名器の響きと最高の演奏家のアンサンブルをお楽しみください。

## プロフィール



### 石橋 幸子 ●ヴァイオリン Yukiko Ishibashi, Violin

大阪府出身。桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース 首席卒業。曾我部千恵子、故田中千香士、故工藤千博、原田幸一郎の各氏に師事。1997年リューベック音楽大学に留学し、ザハール・ブロン氏に師事。1999年よりチューリッヒ音楽大学大学院にジョルジュ・パウク氏に師事し、2003年最優秀の成績で卒業する。第44回全日本学生音楽コンクール（毎日新聞社主催NHK後援）中学校の部大阪大会 第1位。第11回日本モーツァルトコンクール第1位。ドットバイラー国際ヴァイオリンコンクール及び、キバニス国際室内楽コンクールにて優勝。また室内楽奏者としても、ミュンヘン国際弦楽三重奏コンクール及び、パーゼル国際室内楽コンクール優勝（トリオ・オレアード）これまでに、ロームミュージックファンデーション、安田生命クオリティ・オブ・ライフ文化財団より奨学金を受ける。また、文化庁在外芸術家派遣研修員としても活動を広げる。

2007年からは、ヨーロッパ中心に活動している弦楽三重奏グループ「トリオ・オレアード」に力を入れる中、日本での演奏も再開し、定期的にリサイタルや室内楽コンサート、ゲストコンサートマスターとして活動を広げる。高槻ライオンズクラブ賞受賞。現在スイスのチューリッヒ・トーンハレ管弦楽団に在籍しながら、弦楽三重奏グループ「トリオ・オレアード」のヴァイオリン奏者としても活動。2015年にパーゼルで行われた「トリオ・オレアード」の演奏がライブ録音され、デビューCDを発売。2020年にはトリオ・オレアード2nd CD「MOZART」が発売され、その演奏解釈と高度な技法に高い評価を得ている。使用楽器はスイス・ハービスロイティンガー音楽財団より貸与されている、1710年製ストラディバリウス、「キング・ジョージ」。この楽器は故貴志康一が1920年代にベルリン留学時に所有していたストラディバリウスであり、石橋幸子は彼がその楽器を手放して以来、初めての日本人奏者として演奏が許可された。2022年秋には3rd CD「貴志康一知られざる作品群」が発売され好評を得る。また当時貴志康一自らが演奏した「キング・ジョージ」を奏でて演奏された彼の未発表作品は、90年の歳月を経て再び息を吹き返し、彼の作品に再び注目が集まった。



### 塩貝 みつる ●ヴァイオリン Mitsuru Shioyai, Violin

桐朋学園大学ソリスト・ディプロマ修了。原田幸一郎、篠崎史紀、堀正文の各氏に師事。2004年よりハンブルク国立フィルハーモニー管弦楽団、並びにハンブルク国立歌劇場のアソシエイト・コンサートミストレスを12年間歴任。NDRエルプフィル、シュトゥットガルト放送響、フランクフルト放送響、バイエルン歌劇場などで客演。ソリストとしてもウィーン交響楽団、ハンブルク国立フィルハーモニー管弦楽団などと協演している。2015年元日に、バッハのソナタがドイツの主要ラジオ局で生放送された。またハンブルクトリオ、KIZUNA Streichquartett のメンバーとしてドイツハンブルクを中心に活動。ハンブルクのエルプフィルハーモニーをはじめ、毎年ベルリン、ハンブルク、マインツなどドイツ各地でコンサートに出演。18年にはベルリン、ハンブルクでトリプルコンチェルトを、またロシア・サンクトペテルブルクのフィルハーモニーのコンサートシリーズ、ゴスラーでの音楽祭などに招聘され演奏した。22年に、東京・春・音楽祭やオーストリアのシュタイヤー音楽祭などでブラームスソナタ全曲演奏。24年もシュタイヤー音楽祭にてベートーヴェン全曲ソナタ演奏会で招聘される。新聞などで高い評価を受け、ZDF（ドイツ国営第二放送）、NDR（北ドイツ放送）に出演。NHKAM「すっぴん」やNHKFM「ベストオブクラシック」に出演。「BRAHMSIADÉ」「SCHUMANNIA」「Live in St.Petersburg Mendelssohn Piano Trios」各CDをリリース。現在は国内に拠点を移し、現在パシフィックフィルハーモニア東京ソロ・コンサートマスター、ソリスト、室内楽奏者として日本と欧州で活躍している。



### 江尻 南美 ●ピアノ Nami Ejiri, Piano

東京生まれ、桐朋学園大学音楽学部研究科とフランクフルト音楽大学を卒業。ドイツ在住。第10回園田高弘賞ピアノ・コンクール第1位、第8回エンニョ・ポリーノ国際ピアノ・コンクール第1位、第14回ヴィアナ・ダ・モッタ国際ピアノ・コンクール最高位、第13回ショパン国際ピアノ・コンクール最優秀演奏者賞などを受賞のほか、チェルニー＝ステファンスカ氏よりマズルカ特別賞を授与され、第24回日本ショパン協会賞を受賞。ヴァン・クライバーン記念演奏会、第9回倉敷音楽祭、サントリーホール主催Rainbow21コンサート、第15回横浜市招待国際ピアノ演奏会、新日鉄コンサート、ラ・フォル・ジュルネ金沢、東京・春・音楽祭等に出演のほか、桃華楽堂での御前演奏会に出演。ドイツをはじめ、ヨーロッパ各地、北・中南米でも演奏活動を繰り返している。これまでに、NHK-FM、ニューヨークWQXR-FM、ドイツHRなどのラジオ、テレビ番組に出演。ムソルグスキーのプログラムによる初CDは、ドイツの音楽雑誌「ピアノ・ニュース」2002年1月号にて、ベスト・CDとして紹介されたほか、各地の音楽誌上で取り上げられた。2008年には、アクスティカ・レーベルより「Bunte Blaetter」、2009年にはドイツのOrgano Phonレーベルより、「Chopin」のCDがリリースされた。又、ライプツィヒのGenuinレーベルより、2014年にシューベルトのCD、そして2016年には「ディアベリ変奏曲～ベートーヴェンと同時代の作曲家たちによる」のCDがリリースされ、レコード芸術誌や毎日新聞紙上の特選盤に選ばれるなど、好評を得る。ドイツでのライブ録音は、hr2 kultur局により度々、ラジオやライブ・ストーリーミングで放送され、ドイツのテレビ番組「hessenschau」にて数回、ドキュメンタリーが放映された。2018年のオスナブリュック劇場ダンス・カンパニーとのベートーヴェン「第九」プロジェクトでは、リスト編曲によるピアノソロ版を担当し、大好評を得て数度、追加公演された。又、災害地や難民のためのチャリティーコンサート、ガスパール・カサドの室内楽曲紹介シリーズ、ディーツェンバッハ音楽祭の開催など、幅広く活動している。

ピアノを、小山泉、玉置善己、村上弦一郎、園田高弘、レフ・ナトチェニーの各氏等に師事。2005年以降、ポルトガルやドイツにて、公開レッスン、マスタークラスを担当し、ドイツやフランスでのピアノコンクールの審査員に招かれる。フランクフルト音楽大学にて10年間、ピアノ科講師を務めた後、2020年からは、フランクフルトのホッホ音楽院にてピアノ科講師を務めている。